

だい ぶ かだい  
第5部 課題

この用紙は、大会当日使用しますので、必ずご持参ください。

だい かい  
第17回

まいにち にゅうりょく  
毎日パソコン入力コンクール

がつ たいかい  
6月大会

か だい  
【課題】

だい ぶ わぶん しょうがくせいこうがくねん  
第5部 和文A 小学生高学年

かんりょうく  
ことわざ・慣用句②

せいげんじかん ぶん  
制限時間5分

とうじつ ちゅういじこう  
【コンクール当日の注意事項】

- この用紙を拡大・修飾などして、当日使用しても問題ありません。
- 団体責任者の指示にしたがい、18桁の参加番号を半角数字で入力してください。
- 課題の入力はすべて全角文字でおこなってください。スペースと改行も字数に数えます。ただし最終行はのぞきます。

※この課題は、小学館 例解学習ことわざ辞典 第二版より引用しました。  
(文字数1,930字程度)

かだいぶんしょう きんそくもじ  
〈課題文章の禁則文字について〉

毎日パソコン入力コンクールでは、引用した文章を原文のままソフトに取り込んでいるため、行頭、行末に禁則文字が来る場合があります。課題文章のPDFファイルどおりに入力すると正解になります。

しゅさい  
主催

まいにちしんぶんしゃ  
毎日新聞社

いっばんしゃだんほうじん にほん のうりょくけんていいんかい  
一般社団法人 日本パソコン能力検定委員会

こうえん  
後援


そうむしょう  
総務省

もんぶかがくしょう  
文部科学省


こうせいろうどうしょう  
厚生労働省


けいざいさんぎょうしょう  
経済産業省ほか


ぎょう じづめ ぶんしょう にゅうりょく  
1行32字詰で、つぎの文章を入力してください。

※  の箇所で行 (Enter) してください。


きゅうひょうじ ぼあい にゅうりょく  
(級表示は、ミスカウント0の場合の入力めやすです)


とんぼ返り 

もくてきち い よう  
目的地へ行って用をすませて、すぐに引き返すこと。 

たびさき がえ  
旅先からとんぼ返りですぐにもどる。 




みず あぶら  
水と油 

せいかく かんが かた き あ  
たがいに、性格や考え方がちがひ、気が合わないこと。 


ふたり みず あぶら  
二人はまるで水と油だ。 


↑10級



たざん いし  
他山の石 


たにん しっぱい 8級 ↓ じぶん やくだ  
他人の失敗やあやまちを自分をみがくためのいましめとして役立てる

こと。 


かれ しっぱい たざん いし じぶん  
彼の失敗を他山の石として自分をみがく。 


↑5級



かたで かせ き  
かたで風を切る 


↓3級


かたを そびやか して いばって ある 歩く。 


いま にん き ぜっちょう かぜ き いきお  
今や人気絶頂で、かたで風を切る勢いだ。 



←準2級


かべ みみ しょうじ め  
壁に耳あり障子に目あり 


ないしょばなし ちゅうい ひと  
内緒話やかくしごとは、注意しないとすぐ人にもれてしまうものだ。 


かべ みみ しょうじ め  
壁に耳あり障子に目あり、うっかりした事はいえないぞ。 

↑2級




きもにめいじる 


こころ ふか おぼ  
心に深くきざみつけて、覚えておく。 


まちがいを にど とくりかえ さないように、きもにめいじる。 

↓準1級




ひざを打つ 


なるほどと かんしん したり、きゅう おち  
急に思いついたりして、ひざをたたく。 

「いい考えがある」と思わずひざを打つ。 




てんてこ舞い 

やす ま た はたら  
休お間もなくいそがしく立ち働くこと。 

きやく じゅんび かいじょう ま  
客をおかえる準備で、会場はてんてこ舞いのいそがしさだ。 



くさってもたい 

ねう ねう  
値打ちのあるものは、古くなっても、いたんでもそれなりの値打ちを

も持っている。☞

ボロボロだけど、くさってもたいの貴重な本だ。☞

☞ 1級↓  
棒<sup>ぼう</sup>ほど願<sup>ねが</sup>って針<sup>はり</sup>ほどかなう☞

大きく願<sup>ねが</sup>ってもかなうのはごくわずかである。願<sup>ねが</sup>い通<sup>とお</sup>りにはなかなか

いかない。☞  
どうせ棒<sup>ぼう</sup>ほど願<sup>ねが</sup>って針<sup>はり</sup>ほどかなうものならば夢<sup>ゆめ</sup>は思い切<sup>おも</sup>り大き<sup>き</sup>く持<sup>も</sup>とう。☞

☞  
業<sup>ごう</sup>を煮<sup>に</sup>やす☞

腹<sup>はら</sup>を立てていらいらする。☞

バスがいつまでも来<sup>こ</sup>ないので業<sup>ごう</sup>を煮<sup>に</sup>やす。☞

☞  
所<sup>ところ</sup>変われば品<sup>しな</sup>変わる☞

土地<sup>とち</sup>がちがうと風俗<sup>ふうぞく</sup>・習慣<sup>しゅうかん</sup>・ことばなどもちがう。☞

所<sup>ところ</sup>変われば品<sup>しな</sup>変わるで食事<sup>しょくじ</sup>の仕方<sup>しかた</sup>もちがう。☞

☞  
抱<sup>ほう</sup>腹<sup>ふく</sup>絶<sup>ぜつ</sup>倒<sup>とう</sup>☞

腹<sup>はら</sup>をかかえ倒<sup>たお</sup>れるほど大<sup>おお</sup>笑<sup>おわら</sup>いすること。☞

あまりのおかしさに抱<sup>ほう</sup>腹<sup>ふく</sup>絶<sup>ぜつ</sup>倒<sup>とう</sup>する。☞

☞  
紛<sup>まぎ</sup>れもない☞

まちがいなく本<sup>ほん</sup>当<sup>とう</sup>のことである。☞

これは紛<sup>まぎ</sup>れもなく彼<sup>かれ</sup>の描<sup>えが</sup>いた絵<sup>え</sup>だ。☞

☞  
過<sup>す</sup>ぎたるは及<sup>およ</sup>ばざるがごとし☞

やり過<sup>す</sup>ぎは、足<sup>た</sup>りないのと同じでよくない。ものごとにはちょうどよい程<sup>ていど</sup>度<sup>ど</sup>というものがある。☞

いくら運<sup>うんどう</sup>動<sup>どう</sup>が健<sup>けんこう</sup>康<sup>こう</sup>によいといっても、運<sup>うんどう</sup>動<sup>どう</sup>をし過<sup>す</sup>ぎては、過<sup>す</sup>ぎたるは及<sup>およ</sup>ばざるがごとしで、かえって体<sup>からだ</sup>をこわして運<sup>うんどう</sup>動<sup>どう</sup>不<sup>ぶ</sup>足<sup>そく</sup>と同<sup>おな</sup>じことになっ

☞  
千<sup>せん</sup>差<sup>さ</sup>万<sup>ばん</sup>別<sup>べつ</sup>☞

たくさんの種<sup>しゅるい</sup>類<sup>るい</sup>があって、それぞれがみんなちがっていること。☞

人間にんげんのしもんは千差万別せんさばんべつで、同じ形おな かたちはない。↵

歯はに衣着きぬ きせぬ↵  
思おもった通とおりを遠慮えんりょせずいにずばずいば言う。↵  
相あいて手の歯はに衣着きぬ きせぬ言い方かたにおおっとする。↵

三みつ日か天てん下か↵  
短みじかい間あいだだけ一いち位いの座ざや権けん力りょくをえ得えること。↵  
三みつ日か天てん下かで首しゅい位いを明あけ渡わたす。↵

右う往おう左さ往おう↵  
ああわわててふふたためめいいて、動うごき回まわること。↵  
急きゅうな雨あめ降ふりひとで、人ひと々びとが右う往おう左さ往おうする。↵

蜂はちの巣すをつつついたよう↵  
手てがつかつかられられないないほほどの大おおささわわぎぎにななるようす。↵  
先せん生せいが結けっ婚こんするするといいうううわわささに、教きょう室しつ中ちゅうが蜂はちの巣すをつつついたようおおな大おおささわわぎぎにななった。↵

身みを粉こなにする↵  
苦く勞ろうをはたらいやあがあららずらにらけんめいにに働はたらく。↵  
人ひとにりょたたよよららないないで旅りょ費ひをはたらかせせごごううと身みを粉こなにはたらしてはたら働はたらく。↵

口くちをはささむ↵  
他た人にんのは話なしにわ割はなりはなここんこではな話なしす。↵  
ぼぼくくと母ははとはなのあ話なしに、姉あねが横よこかくちらくち口くちをはささむ。↵

胸むねをか貸かす↵  
実じつ力りょくのひとすじつぐりょくれりょくてりょくいりょくるりょく人ひとが、実じつ力りょくのひとおあとあっあてあいあてあるあ人ひとの相あ手あをあしてあやる。↵  
後こう輩はいの練れん習しゅう相あい手てにななって胸むねをか貸かす。↵

三みつ子この魂たましい百ひゃくまで↵  
幼おさないせいころかくの性せ格かくや気き立だてとしは、年としをと取とっとてともか変かわわららないらいいものだ。↵  
幼おさないせいころかくの写しゃ真しんをみ見みると、三みつ子この魂たましい百ひゃくまできで、やきはりつよ気きの強つよそつようつよな

かお  
顔をしている。↵



てん ひと うえ ひと つく ひと した ひと つく  
天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず↵

にんげん う とき びょうどう じょうげ さべつ  
人間は生まれた時から平等で、上下の差別はない。↵

ひと じょうげ てん ひと うえ ひと つく ひと した ひと つく  
人に上下なんかないよ、天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず

。↵



お こ したが  
老いては子に従え↵

とし と おや なにごと こ まか こ い とお  
年を取った親は、何事も子に任せ、子の言う通りにしたほうがよい。↵

そ ぼ お こ したが はは まか  
祖母は老いては子に従えで母にすべて任せている。↵



ひゃく しょうち  
百も承知↵

じゅうぶん し  
十分に知りぬいていること。↵

そのことは、言われなくても百も承知だ。↵



たけ わ  
竹を割ったよう↵

せいしつ ま  
性質がさっぱりしているようす。曲がったところがない。↵

あか たけ わ せいかく も ぬし  
明るくて竹を割ったような性格の持ち主。↵



い しんでんしん  
以心伝心↵

ことばをつか きも あいて つた こころ つう あ  
ことばを使わなくても、気持ちが相手に伝わること。心が通じ合っ  
ていること。↵

い しんでんしん かのじょ きも  
以心伝心で、彼女の気持ちはよくわかる。↵



はるいちばん  
春一番↵

にがつすえ さんがつ とし ふ つよ みなみかせ ふ  
二月末から三月はじめに、その年ではじめて吹く強い南風。これが吹

くと春になるという。↵

はる れいねん はや はるいちばん ふ  
例年より早く春一番が吹いた。↵



じゅんぷうまんぱん↵

ものごとが じゅんちょう すず  
ものごとが順調に進んでいるようす。↵

しぼうどお だいがく はい  
志望通りの大学へ入ることができて、じゅんぷうまんぱんのスタート

を切る。↵



---

はかが行く

仕事しごとがうまく進むすす。はかどる。

思いおものほかに仕事しごとのはかが行かない。

二つ返事

二つ返事

快こころよく、すぐ返事へんじをすること。

二つ返事ふたへんじでたのまれ事ことを引き受ひける。

用をなさない

用をなさない

役やくに立たない。その働はたらきをしない。

古ふるくて用ようをなさない時計とけいですが、祖父そふの大切たいせつな形見かたみなのです。

磨きがかかる

磨きがかかる

練習れんしゅうや経験けいけんを積つみ重ねた結果けっか、技わざや芸げいがよりすぐれたものになる。


経験けいけんを積つんで演奏えんそうに磨みがきがかかる。


---


1行32字詰で、つぎの文章を入力してください。

※  の箇所で行 (Enter) してください。


(級表示は、ミスカウント0の場合の入力めやすです)


とんぼ返り 


目的地へ行って用をすませて、すぐに引き返すこと。 

旅先からとんぼ返りですぐにもどる。 



水と油 

たがいに、性格や考えがちがいが、気が合わないこと。 


二人はまるで水と油だ。 

↑10級




他山の石 


↓8級

他人の失敗やあやまちを自分を見がくためのいましめとして役立つこと。 

↓5級


彼の失敗を他山の石として自分を見がく。 




かたで風を切る 


↓3級

かたをそびやかしていばって歩く。 


今や人気絶頂で、かたで風を切る勢いだ。 

 ←準2級


壁に耳あり障子に目あり 


内緒話やかくしごとは、注意しないとすぐ人にもれてしまうものだ。 

↓2級


壁に耳あり障子に目あり、うっかりした事はいえないぞ。 




きもにめいじる 


心に深くきざみつけて、覚えておく。 


↓準1級

まちがいを二度とくり返さないように、きもにめいじる。 




ひざを打つ 

なるほどと感心したり、急に思いついたりして、ひざをたたく。 

「いい考えがある」と思わずひざを打つ。 




てんてこ舞い 

休む間もなくいそがしく立ち働くこと。 

客をおかえる準備で、会場はてんてこ舞いのいそがしさだ。 



くさってもたい 

値打ちのあるものは、古くなっても、いたんでもそれなりの値打ちを

---

持っている。☞

ボロボロだけど、くさってもたいの貴重な本だ。☞

☞

↓1級

棒ほど願って針ほどかなう☞

大きく願ってもかなうのはごくわずかである。願い通りにはなかなか  
いかない。☞

どうせ棒ほど願って針ほどかなうものならば夢は思い切り大きく持と  
う。☞

☞

業を煮やす☞

腹を立てていらいらする。☞

バスがいつまでも来ないので業を煮やす。☞

☞

所変われば品変わる☞

土地がちがうと風俗・習慣・ことばなどもちがう。☞

所変われば品変わるで食事の仕方もちがう。☞

☞

抱腹絶倒☞

腹をかかえ倒れるほど大笑いすること。☞

あまりのおかしさに抱腹絶倒する。☞

☞

紛れもない☞

まちがいなく本当のことである。☞

これは紛れもなく彼の描いた絵だ。☞

☞

過ぎたるは及ばざるがごとし☞

やり過ぎは、足りないのと同じでよくない。ものごとにはちょうどよ  
い程度というものがある。☞

いくら運動が健康によいといっても、運動をし過ぎては、過ぎたるは  
及ばざるがごとしで、かえって体をこわして運動不足と同じことになっ  
てしまう。☞

☞

千差万別☞

たくさんの種類があって、それぞれがみんなちがっていること。☞

---



---

人間のしもんは千差万別で、同じ形はない。☞



齒に衣着せぬ☞

思った通りを遠慮せずにはばば言う。☞

相手の齒に衣着せぬ言い方におっとする。☞



三日天下☞

短い間だけ一位の座や権力を得ること。☞

三日天下で首位を明渡す。☞



右往左往☞

あわてふためいて、動き回ること。☞

急な雨降りで、人々が右往左往する。☞



蜂の巣をつついたよう☞

手がつけられないほどの大さわぎになるようす。☞

先生が結婚するといううわさに、教室中が蜂の巣をつついたような大さわぎになった。☞



身を粉にする☞

苦勞をいやがらずにけんめいに働く。☞

人にたよらないで旅費をかせごうと身を粉にして働く。☞



口をはさむ☞

他人の話に割りこんで話す。☞

ぼくと母との話に、姉が横から口をはさむ。☞



胸を貸す☞

実力のすぐれている人が、実力のおとっている人の相手をしてやる。☞

後輩の練習相手になって胸を貸す。☞



三つ子の魂百まで☞

幼いころの性格や気立ては、年を取っても変わらないものだ。☞

幼いころの写真を見ると、三つ子の魂百までで、やはり気の強そうな

---

---

顔をしている。☞

☞

天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず☞

人間は生まれた時から平等で、上下の差別はない。☞

人に上下なんかないよ、天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず。  
☞

☞

老いては子に従え☞

年を取った親は、何事も子に任せ、子の言う通りにしたほうがよい。☞

祖母は老いては子に従えて母にすべて任せている。☞

☞

百も承知☞

十分に知りぬいていること。☞

そのことは、言われなくても百も承知だ。☞

☞

竹を割ったよう☞

性質がさっぱりしているようす。曲がったところがない。☞

明るくて竹を割ったような性格の持ち主。☞

☞

以心伝心☞

ことばを使わなくても、気持ちが相手に伝わること。心が通じ合っていること。☞

以心伝心で、彼女の気持ちはよくわかる。☞

☞

春一番☞

二月末から三月はじめに、その年ではじめて吹く強い南風。これが吹くと春になるという。☞

例年より早く春一番が吹いた。☞

☞

じゅんぷうまんぱん☞


ものごとが順調に進んでいるようす。☞


志望通りの大学へ入ることができて、じゅんぷうまんぱんのスタートを切る。☞


☞

---


---


はかが行く 


仕事もうまく進む。はかどる。 

思いのほか仕事のはかが行かない。 




二つ返事 


快く、すぐ返事をする。 

二つ返事でたのまれ事を引き受ける。 





用をなさない 

役に立たない。その働きをしない。 

古くて用をなさない時計ですが、祖父の大切な形見なのです。 



磨きがかかる 

練習や経験を積み重ねた結果、技や芸がよりすぐれたものになる。 

経験を積んで演奏に磨きがかかる。

---